



人を育て 人を活かす

日総工産株式会社

東証第1部 コード6569

2022年3月期 第3四半期

決算説明会資料

2022年2月10日開催予定

2022年3月期 第3四半期 実績

- 在籍数は前期末比で1,569名増加
- 前年同期比で、増収減益
- 自動車関連は、11月以降生産が回復するも半導体、部品供給不足の影響により挽回生産に至らず
- エンジニアの売上高は在籍数の増加により順調に増加

- 1** 2022年3月期 第3四半期 **決算概要**
- 2** 2022年3月期 第3四半期 **活動の概況**
- 3** **ターゲット別業績について**
- 4** **今後の見通し(2022年3月期)**
- 5** **株主還元方針**
- 6** **補足資料**



1

2022年3月期 第3四半期 決算概要

(単位：百万円)

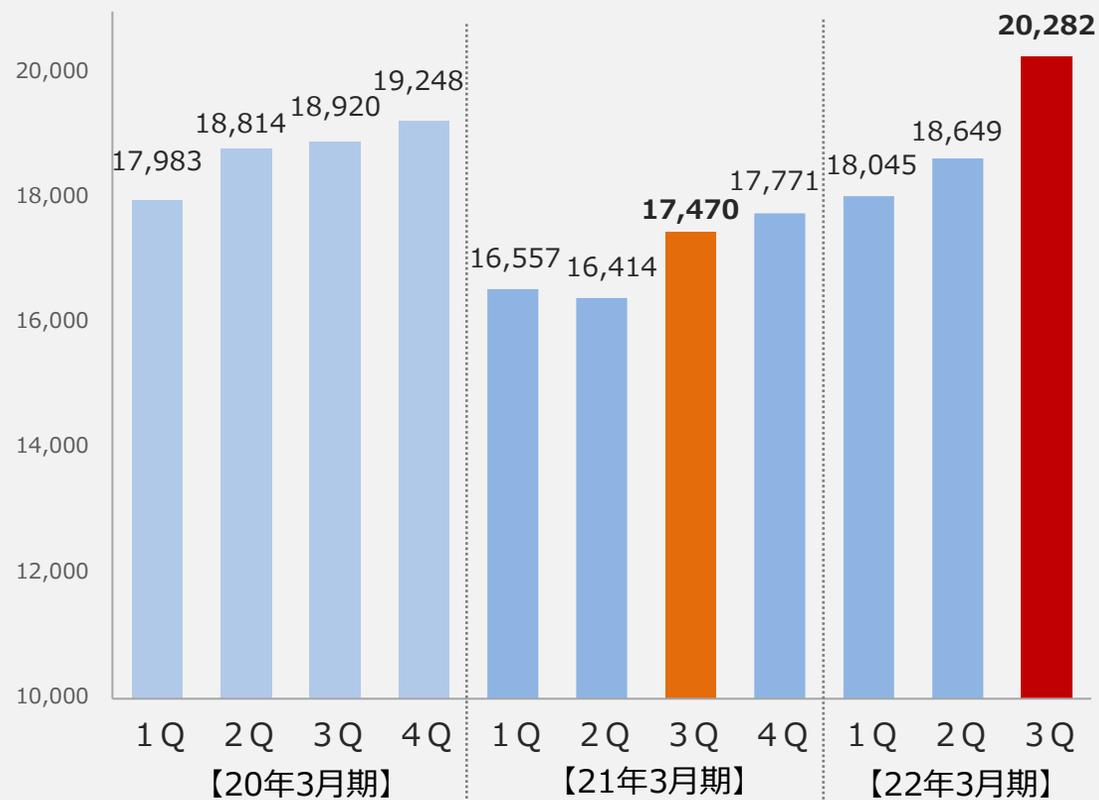
ポイント

- 在籍数の増加及び単価上昇により増収。
- 自動車関連で、半導体、部品供給不足の影響により稼働が減少、粗利率が低下。
- 外部人材ニーズは高く、採用への投資を継続。これにより販管費が増加。
- 粗利率の低下、販管費の増加により営業利益は減益。
- その他の事業については、増収増益。

	21年3月期 第3四半期		22年3月期 第3四半期		対前年同期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	50,442	100.0%	56,977	100.0%	6,534	13.0%
売上総利益	8,433	16.7%	9,493	16.7%	1,060	12.6%
販管費	6,754	13.4%	8,086	14.2%	1,332	19.7%
営業利益	1,678	3.3%	1,406	2.5%	△ 271	△16.2%
経常利益	2,005	4.0%	1,595	2.8%	△ 409	△20.4%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,284	2.5%	1,036	1.8%	△ 247	△19.3%

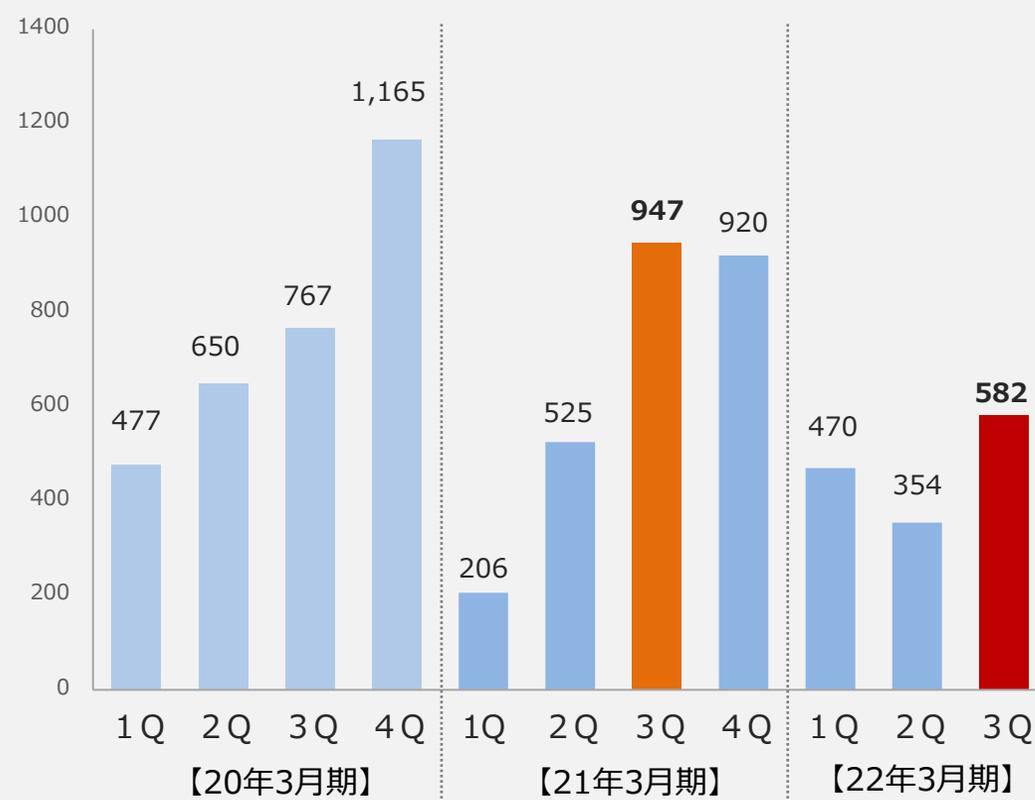
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



売上高について

売上高は、在籍数の増加及び単価上昇もあり14.0%の増加。

費用・利益面について

- ・採用への積極的投資もあり、販管費が増加。
- ・自動車関連で、半導体、部品供給不足による稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）減少の影響が継続。

助成金収入

- ・2021年3月期3Q：287百万円
- ・2022年3月期3Q：84百万円

(単位：百万円)

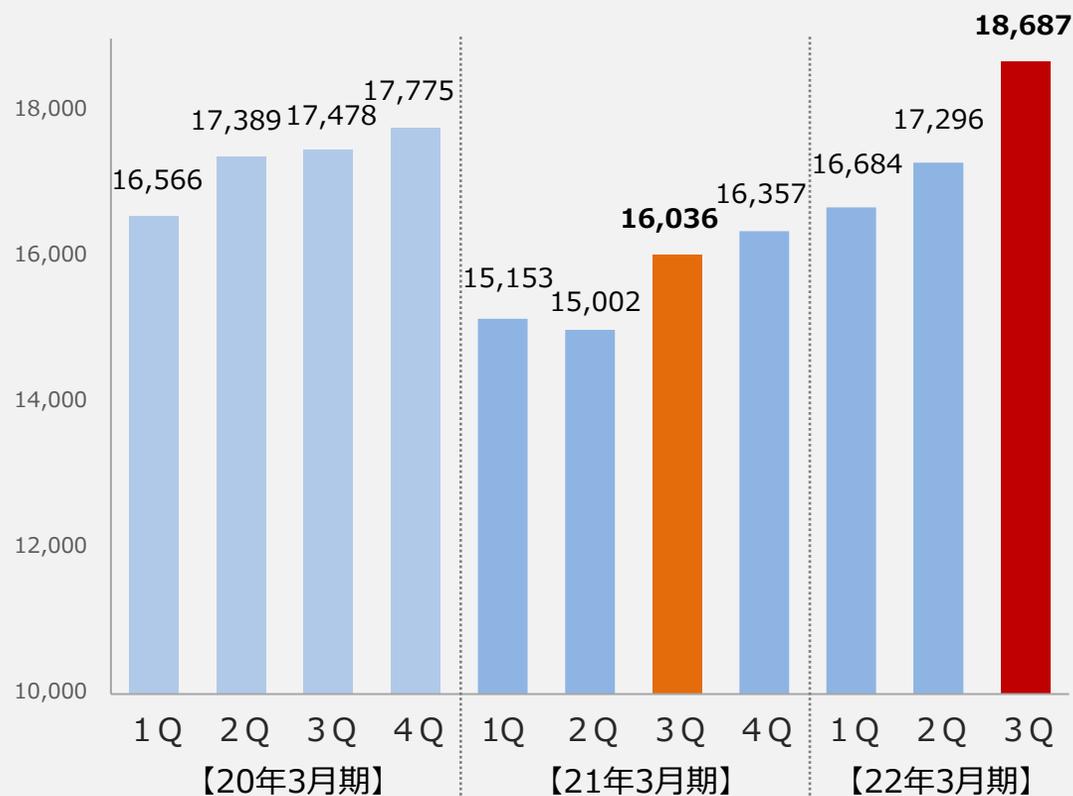
	21年3月期 第3四半期		22年3月期 第3四半期		対前年同期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	46,191	100.0%	52,668	100.0%	6,476	14.0%
売上総利益	8,028	17.4%	9,048	17.2%	1,019	12.7%
販管費	6,309	13.7%	7,618	14.5%	1,309	20.7%
営業利益	1,718	3.7%	1,429	2.7%	△289	△16.8%
経常利益	1,962	4.2%	1,528	2.9%	△434	△22.1%
四半期純利益	1,263	2.7%	989	1.9%	△274	△21.7%

2022年3月期 四半期単位の単体業績



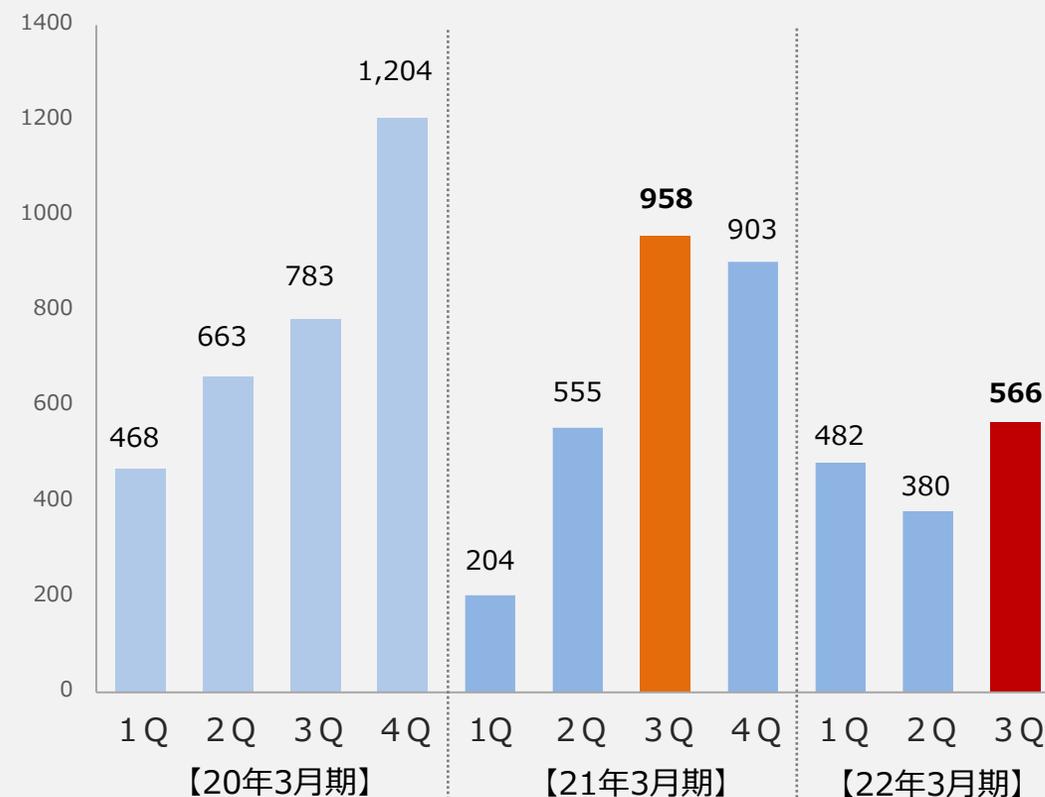
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)





2

2022年3月期 第3四半期 活動の概況

連結業績

売上高	56,977百万円	(前年同期比 6,534百万円/13.0%)
営業利益	1,406百万円	(前年同期比 △271百万円/△16.2%)

● 業種別売上高（前年同期比）

自動車	… +16.5%
電子デバイス	… +18.6%

- ・自動車関連では、前年同期比で16.5%増加。半導体、部品供給不足の影響もあり挽回生産が遅れるも11月以降、生産が回復。
- ・電子デバイス関連では、前年同期比で18.6%増加。半導体は引き続き堅調、車載関連は増産。

● 四半期末在籍者数

14,715名（前期末比+1,569名）

- ・在籍数は、前期末比で1,569名増加。挽回生産に向けて自動車関連で増員。電子デバイス関連の人材ニーズも引き続き堅調。

● 一人当たり売上高/月

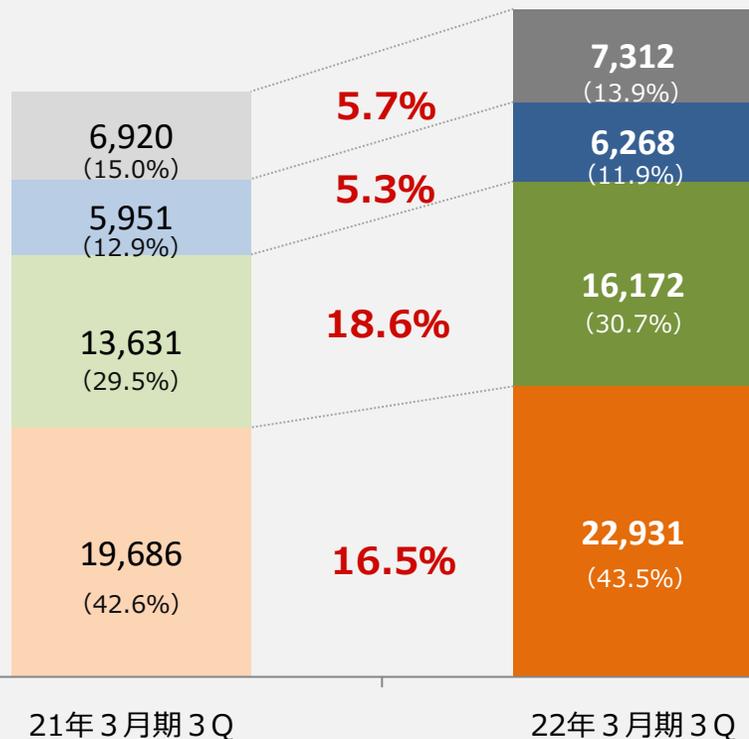
412千円（前年同期比+24千円）

- ・請求単価の上昇もあり、一人当たりの売上高は、前年同期比で24千円増加。
- ・自動車関連で、半導体、部品供給不足による稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）減少の影響が継続、伸びが鈍化。

売上高構成比

（単位：百万円）

■ その他 ■ 精密・電気機械 ■ 電子デバイス ■ 自動車



※（ ）内%は全売上高比、赤字の%は、前年同期比伸長率

【精密・電気機械】

前年同期比で5.3%増加。緩やかに回復しているが、2020年3月期レベルまでは至らず。

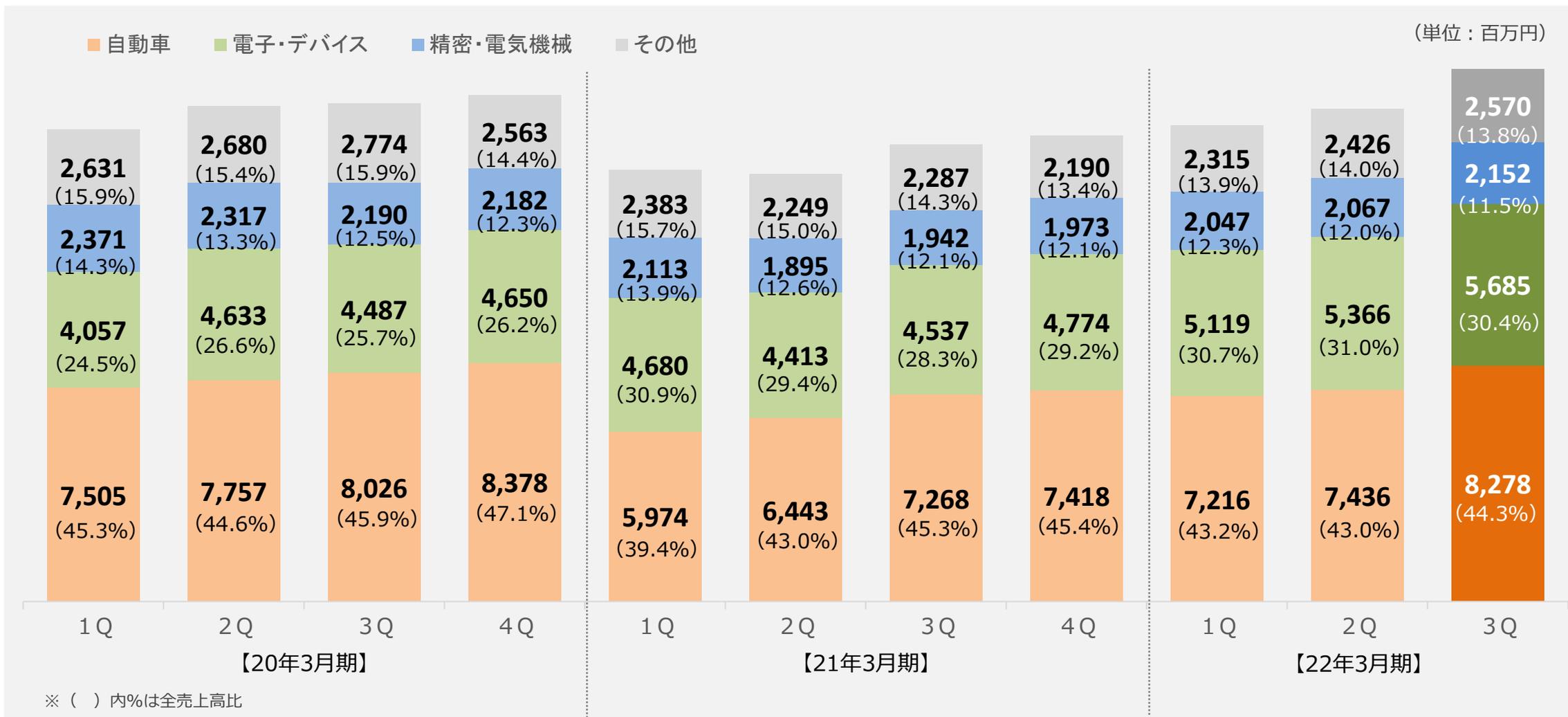
【電子デバイス】

前年同期比で18.6%増加。堅調な半導体に加え、車載関連の増産もあり、3Qの売上高は上場来、過去最高を更新。

【自動車】

前年同期比で16.5%増加。ボデーメーカーを中心に半導体、部品供給不足による稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）減少の影響があるも、挽回生産に向けた増員もあり売上高は増加。

2022年3月期 四半期単位業種別売上高（単体）



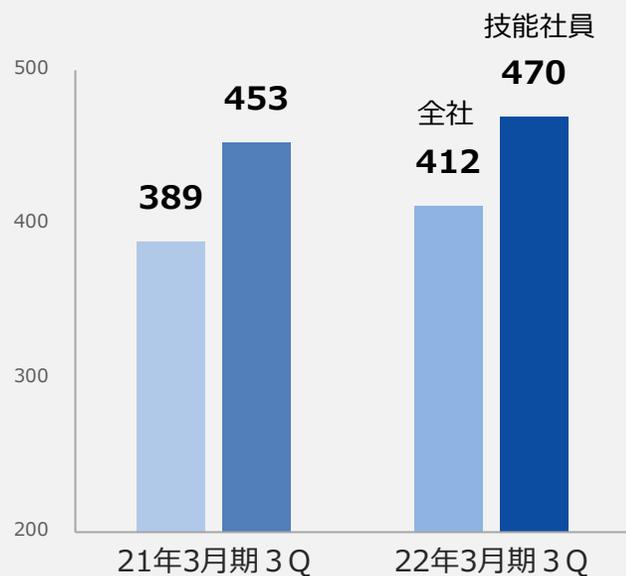
一人当たり売上高（単体）

- 2022年3月期 3Q累計 <全 社> 一人当たり売上高 412千円（前年同期比 +24千円）
<技能社員> 一人当たり売上高 470千円（前年同期比 +17千円）
- 全社、技能社員の一人当たりの売上高は、前年同期比で増加。請求単価の上昇もあり増加も、自動車関連で半導体、部品供給不足による稼働減少の影響が継続。

一人当たり売上高

（単位：千円）

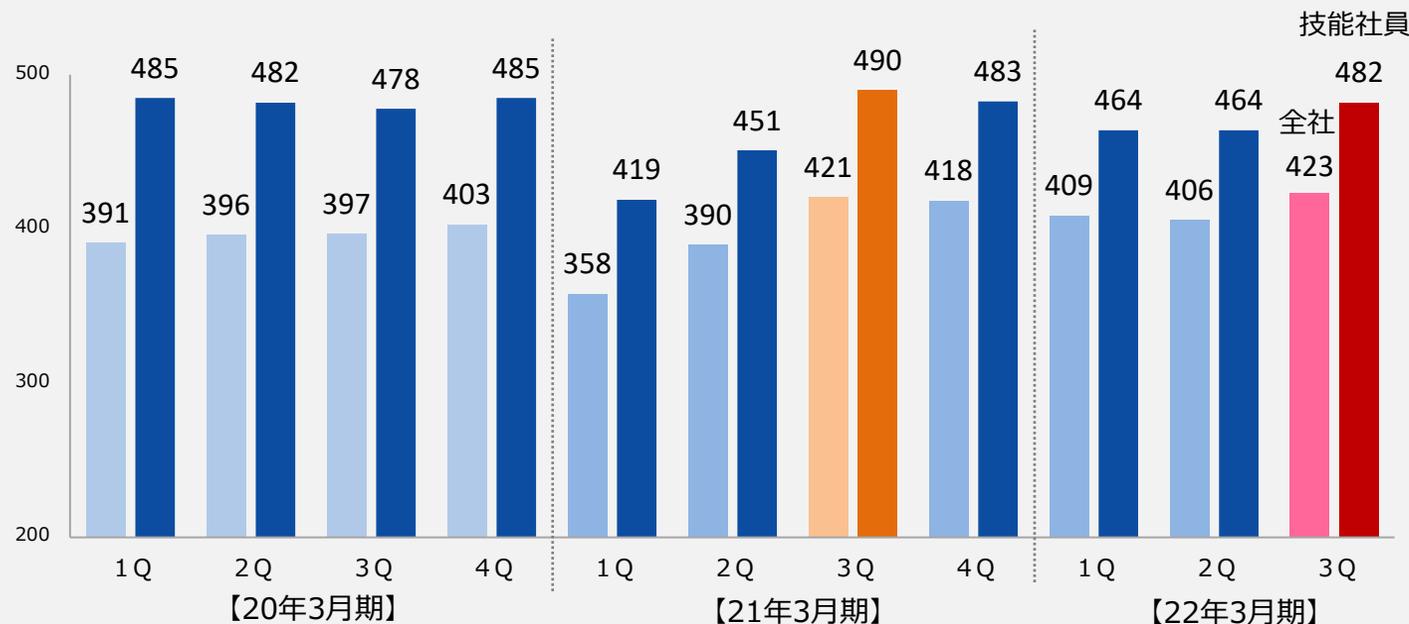
（月平均換算）



一人当たり売上高

（単位：千円）

（四半期単位）



在籍人数（単体）

前期末比

+1,569名（+11.9%）

ポイント①

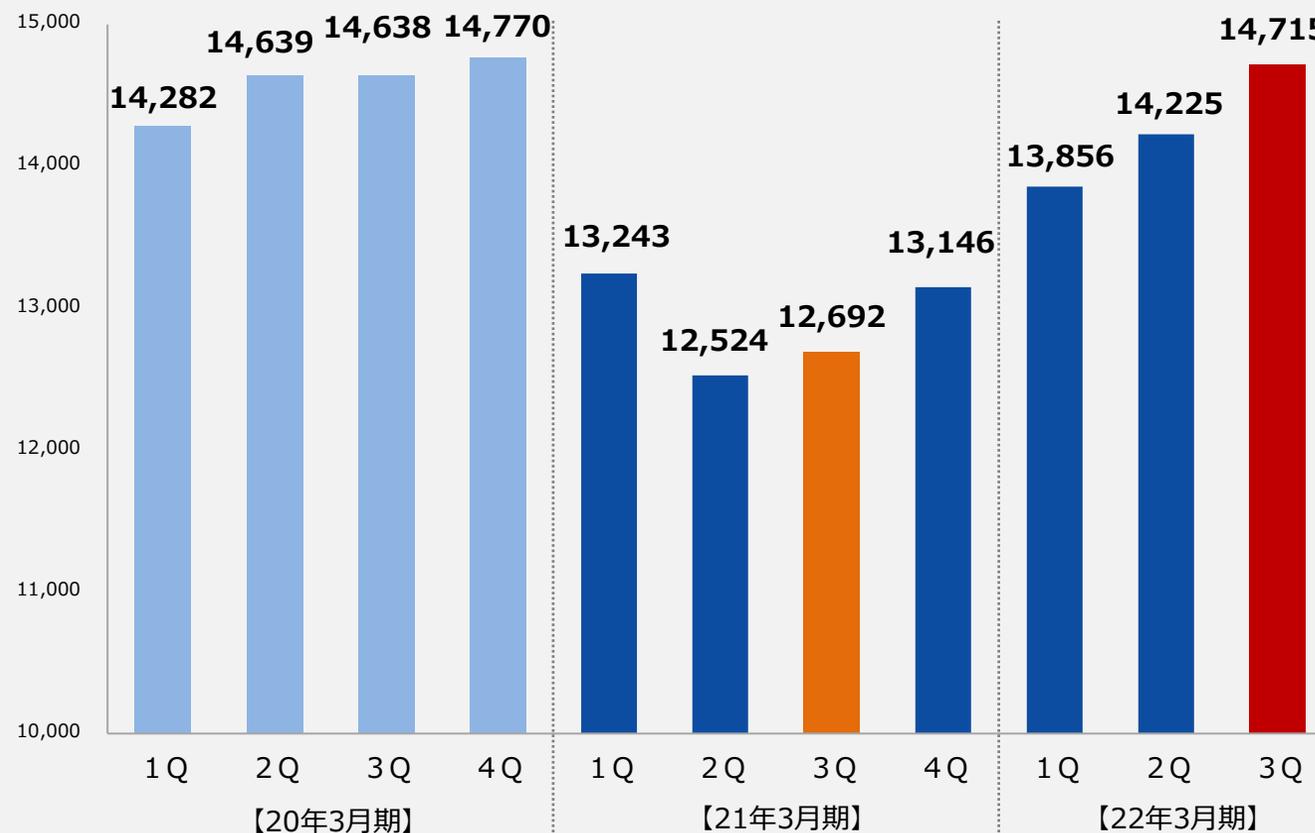
人材ニーズは引き続き堅調。また退社抑制もあり、在籍数は順調に増加。

ポイント②

自動車関連での挽回生産および旺盛な半導体需要による増員に加え、その他の業種でも人材ニーズが拡大。

期末在籍人数

（単位：名）



技能社員・エンジニア数（単体）

ポイント①

- ・ エンジニアは982名（2Q比+81名）
- ・ 技能社員は5,244名（2Q比+121名）

ポイント②

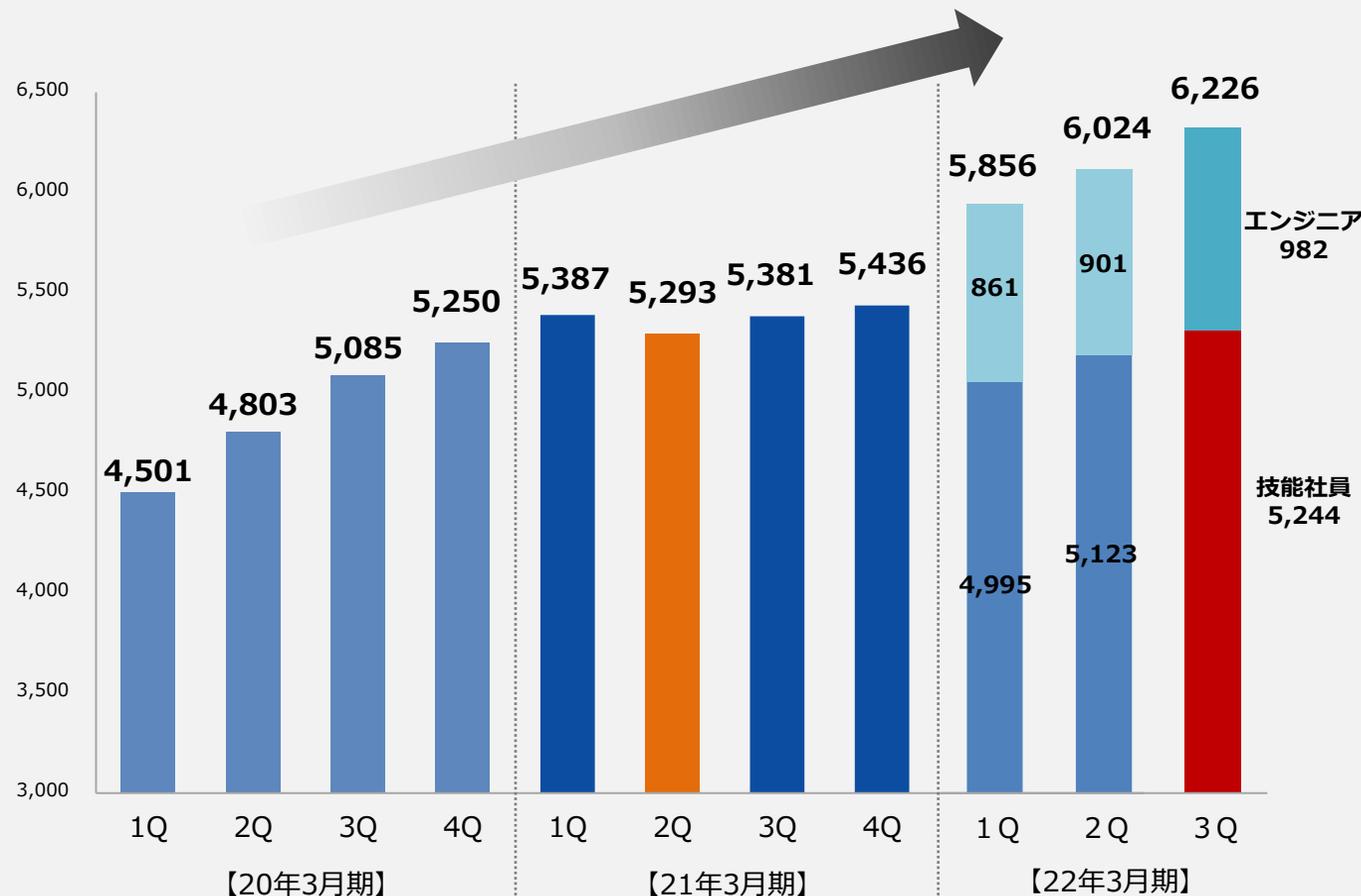
技能社員からエンジニアへのキャリアアチェンジ推進等もあり、エンジニアは順調に増加。

ポイント③

アカウントである自動車メーカーとそのグループ企業に加え、半導体関連メーカーで増加。

技能社員・エンジニア数

（単位：名）



アカウント企業について（単体）

ポイント①

アカウント企業グループの3Qの売上高は、前年同期比で15.5%増加。3Q累計では、前年同期比で12.3%増加。

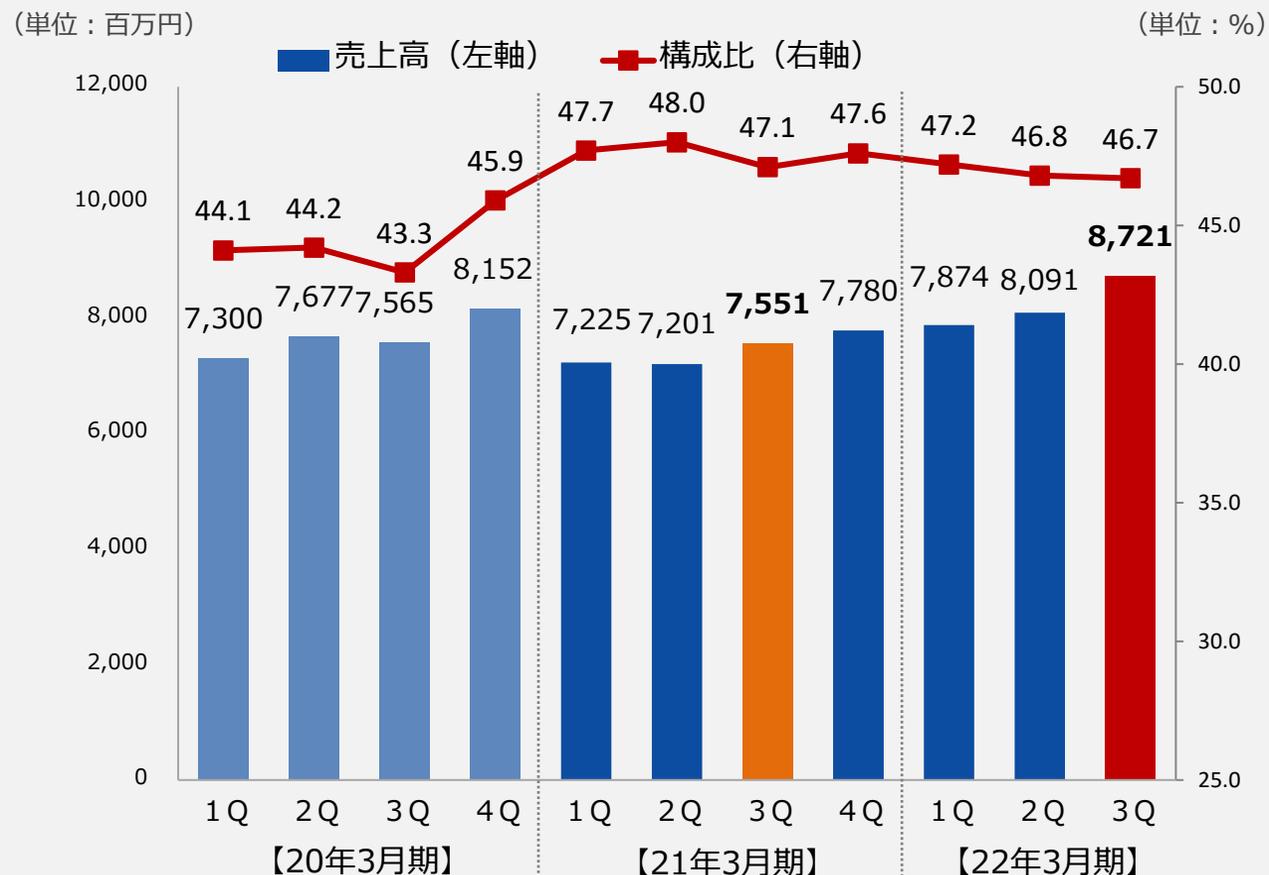
ポイント②

3Qの売上高は、上場来、過去最高を更新。自動車系企業グループで11月以降、生産が回復。また挽回生産のための増員による在籍増加もあり、売上高が増加。

ポイント③

アカウント企業の売上高に占める比率は、自動車関連での半導体、部品供給不足の影響もあり、横ばいで推移。

アカウント企業グループ売上高



離職率（単体）

2022年3月期 第3四半期 実績

全体の離職率

3.7%

（対2021年3月期 0.5P改善）

技能社員の離職率

1.6%

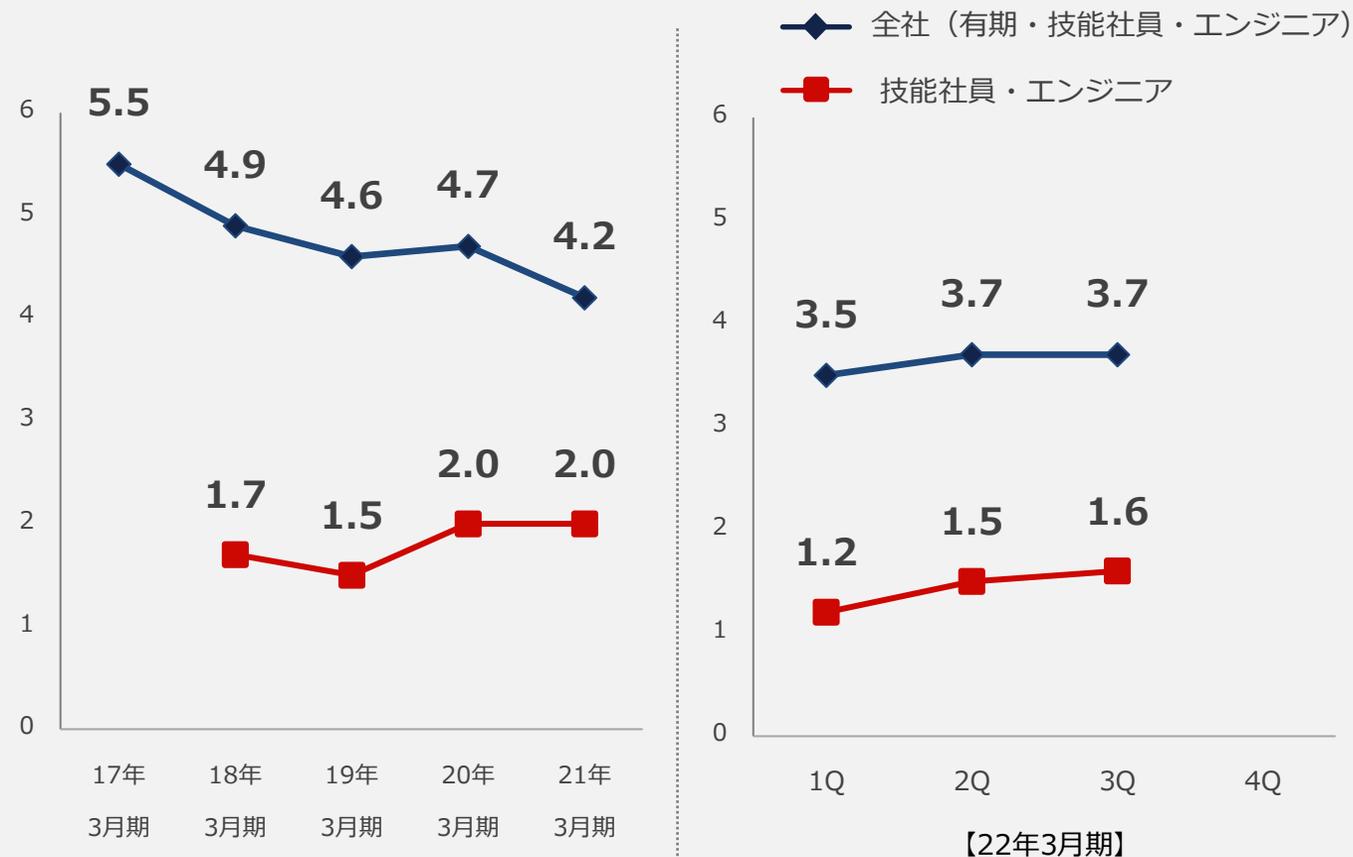
（対2021年3月期 0.4P改善）

ポイント

全社の離職率は、4%未満を維持。
技能社員・エンジニアの離職率も
2%未満を維持。
離職率維持が、在籍数増加に貢献。

離職率推移

（単位：%）



教育実績（単体）

ポイント①

主要コースの教育実績合計は、前年同期比で約2倍に増加。

ポイント②

- ・エンジニア教育実績は前年同期比で122名増加。
- ・設備保全基礎教育実績は前年同期比で49名増加。

● 2022年3月期 第3四半期 主要なコース別教育実績（延べ人数）

（単位：名）

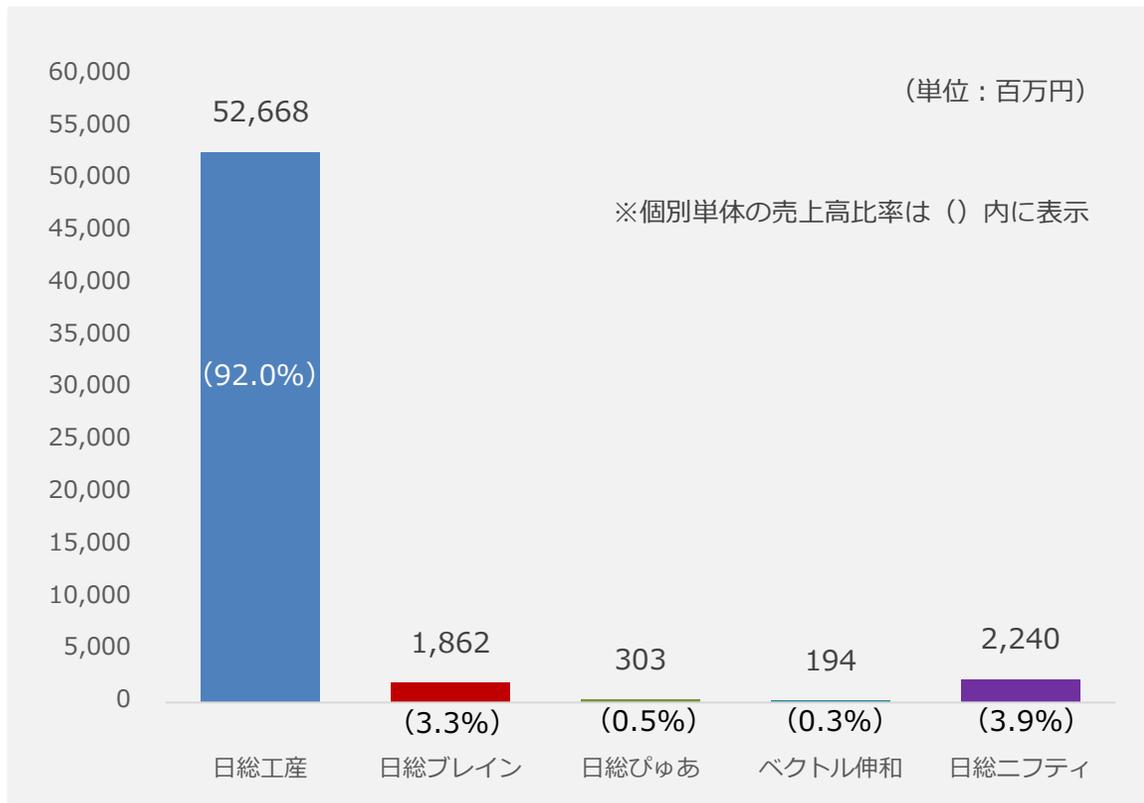
研修名	3Q (10月～12月)	内容	21年3月期 3Q
技能社員教育	327	技能社員スタンダード教育	258
設備保全基礎教育	100	設備保全基礎教育	51
エンジニア教育	158	製造設備保全・製造設備技術 機械設計・生産技術 SEAJ教育（半導体に特化した安全教育）	36
製造教育	1,419	ものづくり教育、 製造スタッフ配属前実習、 移動教育等	666
合 計	2,004		1,011



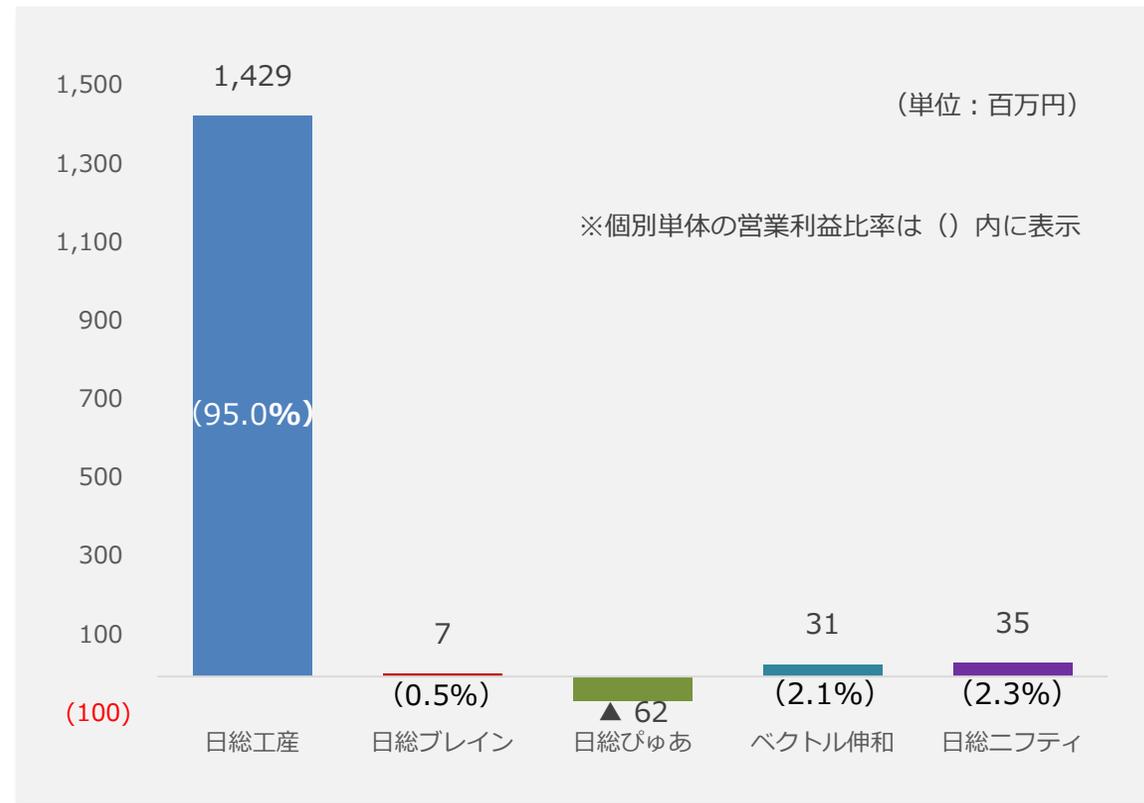
3 ターゲット別業績について (2022年3月期 第3四半期)

個別単体売上高・営業利益比率

2022年3月期 第3四半期
個別単体売上高



2022年3月期 第3四半期
個別単体営業利益



売上高・営業利益の92%以上は単体の業績で構成

既存領域について

既存売上高について

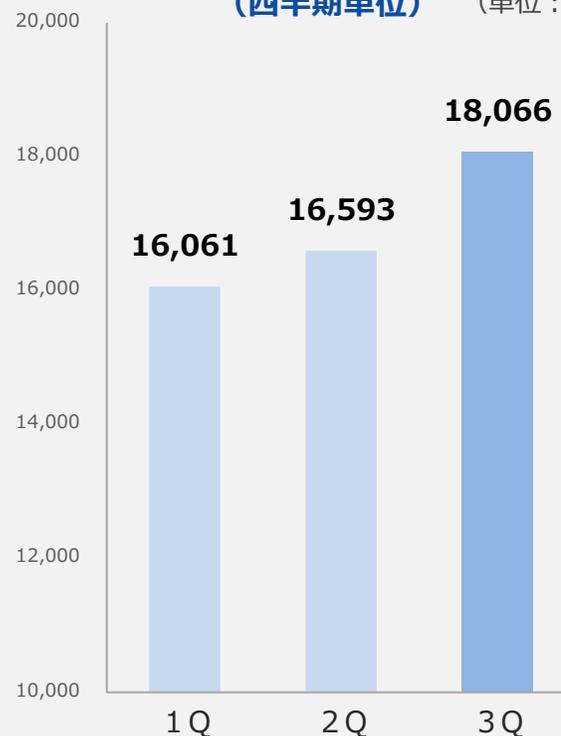
3Q単体の売上高は、在籍数の増加もあり、2Q比で8.9%増加。

既存在籍について

自動車関連での挽回生産による増員に加え、ベクトル伸和の子会社化もあり、在籍数は2Q比で、530名増加。内訳は日総工産で+409名、日総ブレインで+35名、また新たに加わったベクトル伸和が86名。

既存売上高

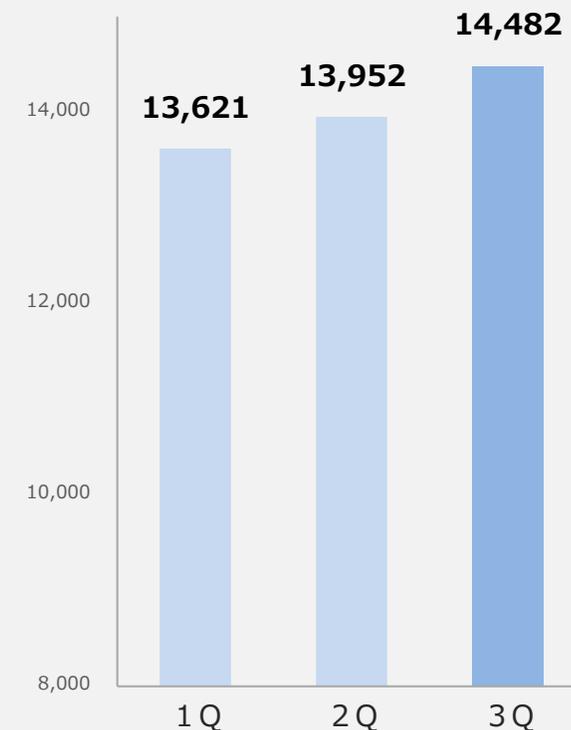
(四半期単位) (単位：百万円)



【22年3月期】

既存期末在籍人数

(単位：名)



【22年3月期】

エンジニア領域について（業績）

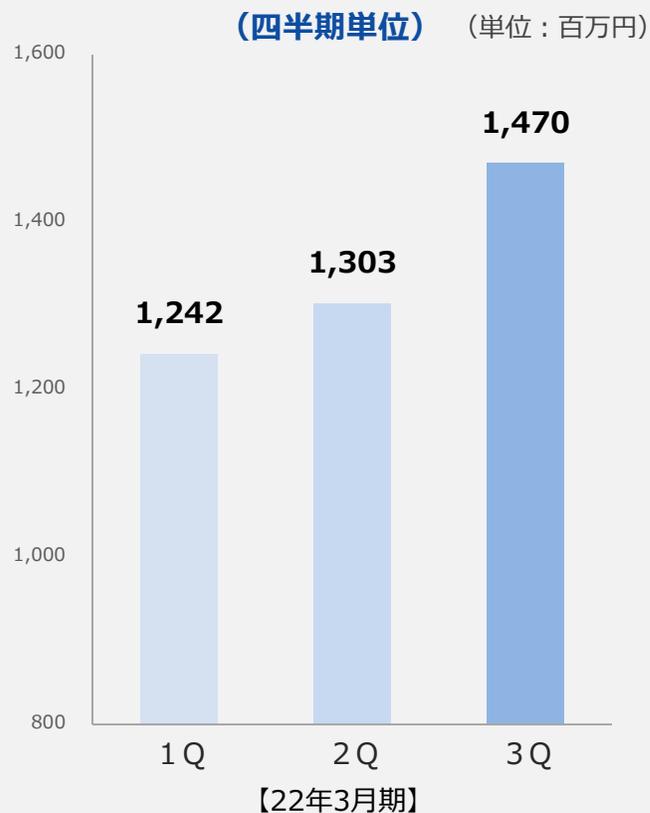
売上高について

- ・ 3Qの売上高は、2Q比で166百万円（12.8%）増加。
- ・ 今期目標に対し、進捗率は97.9%となり、ターゲット別売上高目標では、進捗率が最も高い。

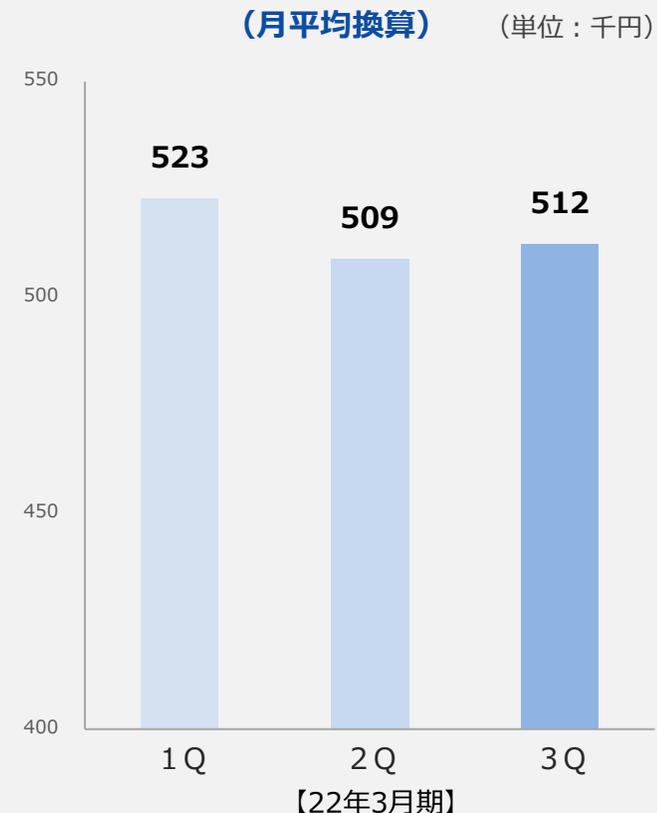
一人当たりの売上高について

エンジニアの一人当たりの売上高は、512千円/月、技能社員の470千円/月を上回る。

エンジニア売上高



エンジニア一人当たり売上高



エンジニア領域在籍人数

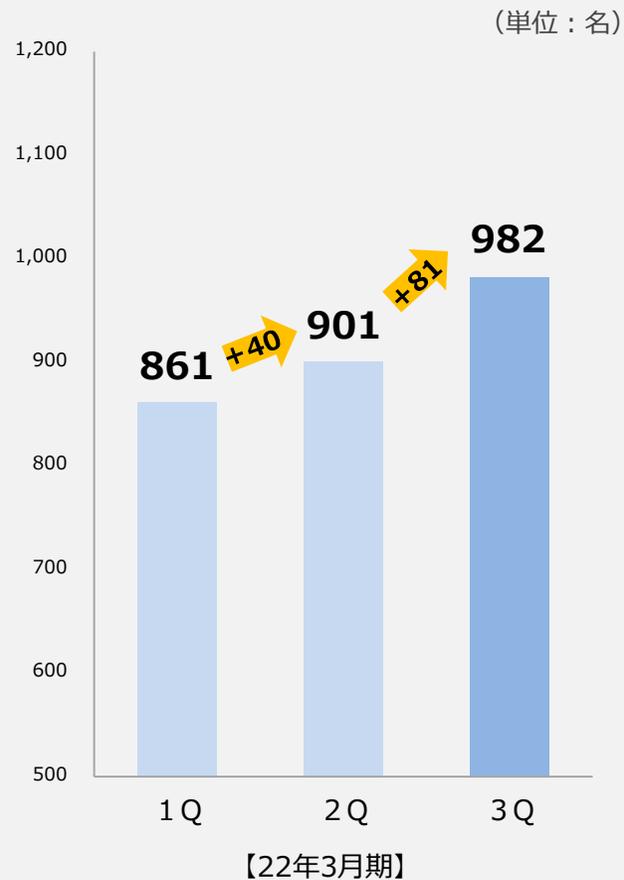
エンジニア期末在籍について

- エンジニアの在籍数は、2Q末比で81名増加。
- 四半期単位での在籍数の伸びは、2Q比で約2倍に増加。

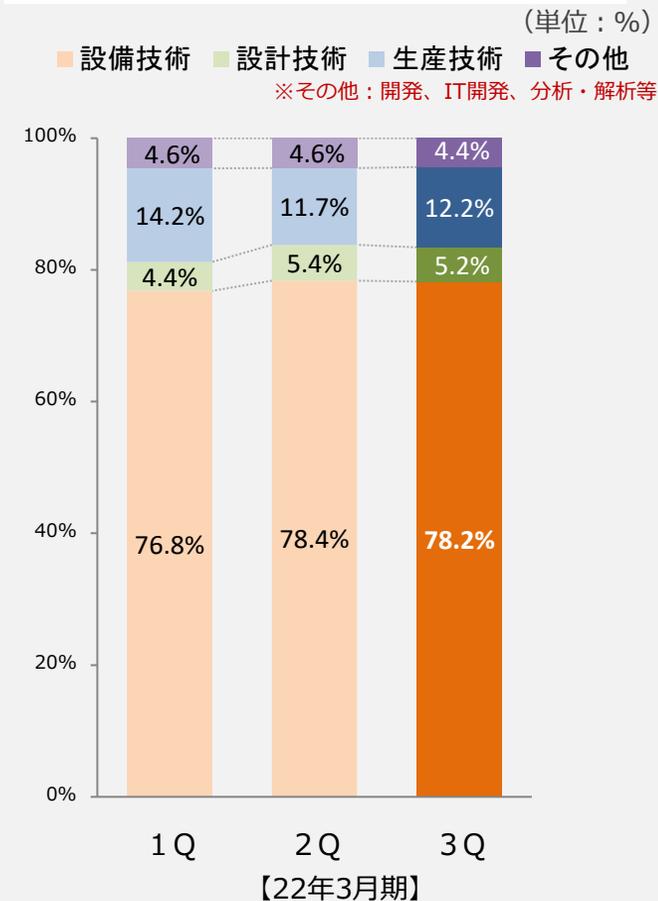
エンジニア業種分類について

業種別在籍では、半導体装置を中心とした設備技術への注力を継続。

エンジニア期末在籍人数



業種別在籍 構成比



離職率（既存・エンジニア領域）

2022年3月期 第3四半期 実績

既存領域（単体）の離職率

3.9%

（対2022年3月期2Q 0.1P増加）

エンジニア領域（単体）の離職率

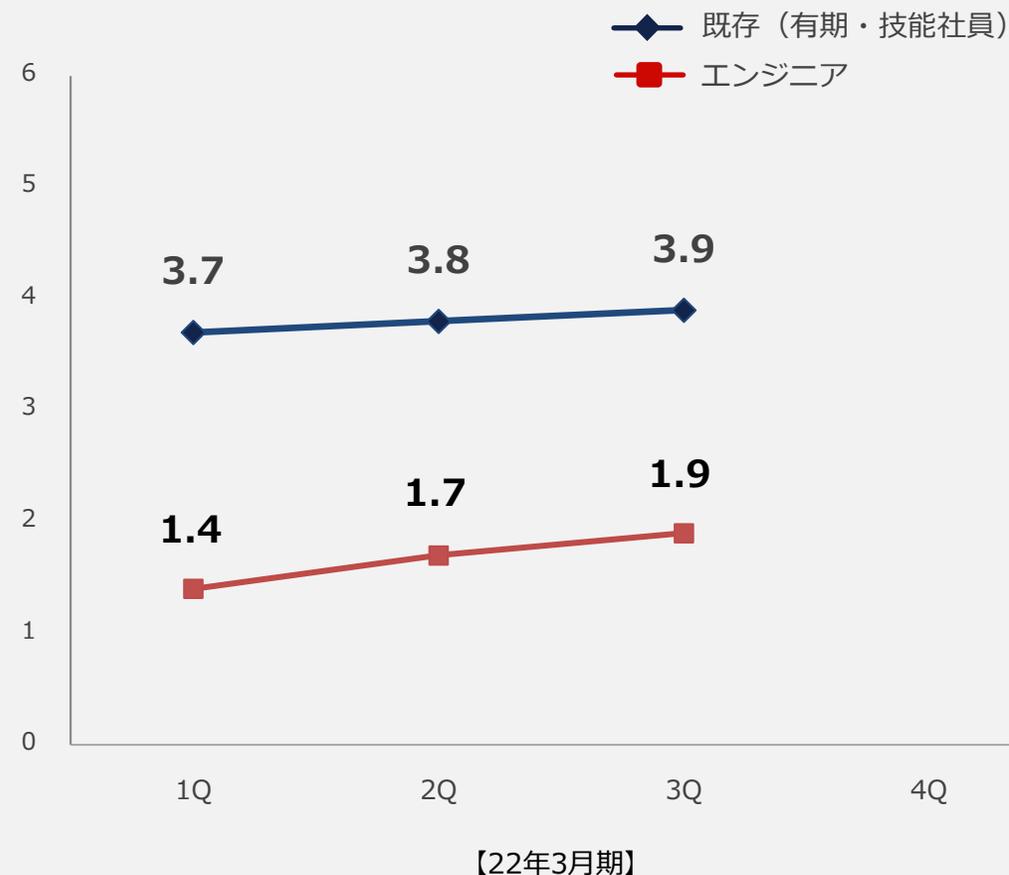
1.9%

（対2022年3月期2Q 0.2P増加）

ポイント

既存の離職率は、4%未満を維持。
エンジニアの離職率は、在籍数の増加もあり2Q比で0.2P増加も2%未満を維持。

離職率推移 （単位：％）



AIソリューションサービス進捗について

製造メーカーが抱える課題解決を目的として、AIソリューションサービスをより具体化しご提供。

AIを活用した具体的課題解決に向けて

当社は、製造メーカーが抱える課題の中で特にニーズの高い、外観検査、予知保全、プロセス条件最適化を行う上での業務の効率化・省人化などの課題解決を目的として、より具体的なAIソリューションサービスを提供してまいります。



当社は、株式会社ツナググループ・ホールディングス（社長：米田光宏、東京都千代田区）の連結子会社である株式会社ツナグHCサポート【新社名：株式会社LeafNxT（リーフネクスト）】への第三者割当増資引受け及び合併会社化についての契約を締結いたしました。

人材領域市場のさらなる活性化を実現するために、合併会社を通じて双方が持つ事業やノウハウを融合した新たな価値を提供することで、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）の実現に向けた取り組みを行ってまいります。

合併会社の事業内容

- ・ アライアンス企業と人材不足企業を繋ぐ人材紹介プラットフォーム事業
- ・ 製造請負業界を中心とした採用コンサルティング事業（メディアディレクション事業）
- ・ 資格取得支援による育成型有資格者派遣事業
- ・ 軽作業領域を中心とする派遣事業

※詳細につきましては、2022年1月18日に公表いたしました「株式会社ツナググループ・ホールディングスとの資本業務提携（先方子会社の合併会社化）に関するお知らせ」をご覧ください。

【設立する合併会社の概要】

(1) 名称	株式会社ツナグHCサポート ※2022年3月1日までに株式会社LeafNxTへ社名変更予定
(2) 所在地	東京都千代田区神田三崎町三丁目1番16号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 石橋弘二
(4) 事業内容	人材派遣事業、育成型有資格者派遣事業、 人材紹介プラットフォーム事業、メディアディレクション事業等
(5) 資本金	124百万円
(6) 設立年月日	2021年8月3日
(7) 合併会社予定日	2022年3月1日
(8) 出資比率	株式会社ツナググループ・ホールディングス：51.3% 日総工産株式会社：48.7%

その他の事業 事業収益

ポイント

- 介護施設全体の入居率は、90%以上を維持。
- 効率的な運営を継続し、増収増益。
- 営業利益は、2Qの20百万円から35百万円に増加。

● その他の事業実績

(単位：百万円)

	21年3月期 第3四半期		22年3月期 第3四半期		対前年同期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	2,220	100.0%	2,240	100.0%	19	0.9%
経費	2,242	101.0%	2,204	98.4%	△37	△1.7%
営業利益	△21	△1.0%	35	1.6%	57	—

施設入居者数

(単位：名)

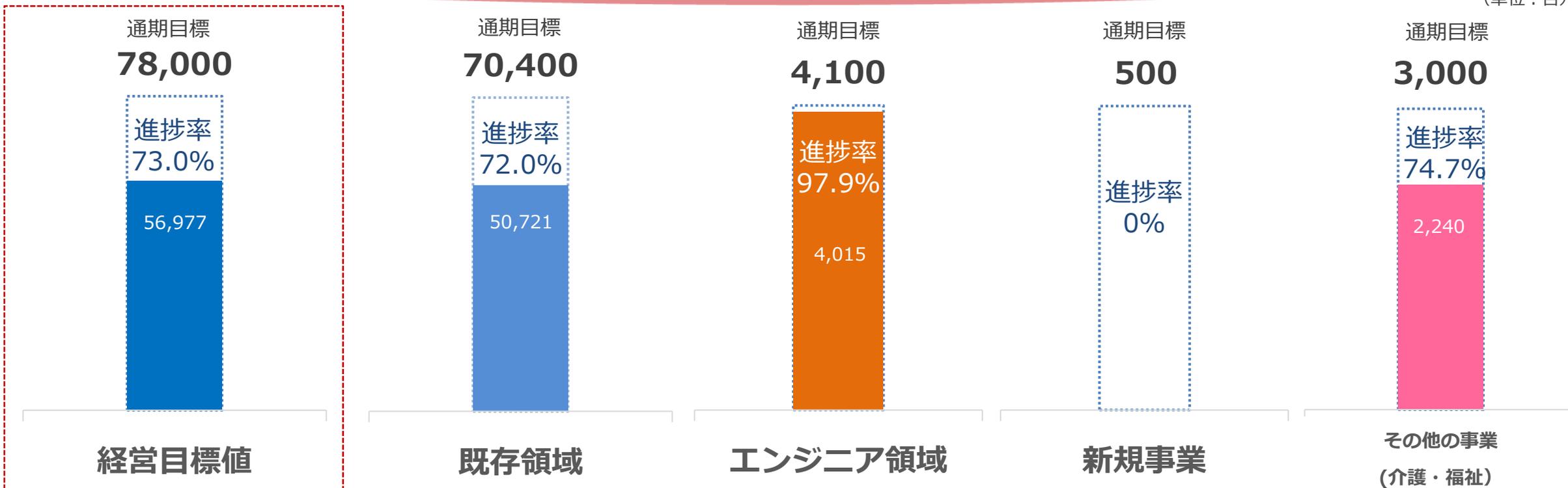
■ 入居者数 — 入居率



まとめ（ターゲット別売上高目標 進捗）



（単位：百万円）



	22年3月期 経営目標値（連結）			22年3月期 既存領域			22年3月期 エンジニア領域			22年3月期 新規事業			22年3月期 その他の事業		
	通期目標	第3四半期 実績	進捗率	通期目標	第3四半期 実績	進捗率	通期目標	第3四半期 実績	進捗率	通期目標	第3四半期 実績	進捗率	通期目標	第3四半期 実績	進捗率
売上高	78,000	56,977	73.0%	70,400	50,721	72.0%	4,100	4,015	97.9%	500	0	0%	3,000	2,240	74.7%

株主優待制度導入について

株主優待制度「日総工産プレミアム優待倶楽部」を新設

当社株式への投資の魅力をより一層高め、中長期的に保有していただける株主様の増加を図ることを目的として、株主優待制度「日総工産プレミアム優待倶楽部」を新設いたしました。なお、初回の株主優待ポイントは2022年5月の贈呈を予定しております。

株主優待制度の概要

- ・毎年3月末現在の当社株主名簿に記載又は記録された3単元（300株）以上保有の株主様には、保有株式数に応じて優待ポイントが毎年5月（予定）に贈呈されます。
- ・優待ポイントを株主様限定の特設Webサイト「日総工産プレミアム優待倶楽部」において、食品、電化製品など4,000種類以上の商品から優待ポイントに応じて交換可能となります。

<株式優待ポイント表（1ポイント≒1円）>

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株～499株	3,000ポイント	毎年5月（予定）
500株～699株	6,000ポイント	
700株～899株	10,000ポイント	
900株～999株	15,000ポイント	
1,000株～1,999株	20,000ポイント	
2,000株以上	50,000ポイント	

※詳細につきましては、2021年12月16日に公表いたしました「株主優待制度導入に関するお知らせ」をご覧ください。

4 今後の見通し（2022年3月期）

2022年3月期 通期連結業績予想



通期連結業績予想では、在籍者数は期初計画を上回るペースで増加し増収となっておりますが、自動車関連での半導体、部品供給不足による稼働減少もあり、減益を見込んでおります。

■ 2022年3月期通期連結業績予想数値（2021年4月1日～2022年3月31日）

（単位：百万円）

	21.3期実績		22.3期予想		対前期比	
	実績	百分比	予想	百分比	増減額	増減率
売上高	68,213	100.0%	78,000	100.0%	9,786	14.3%
営業利益	2,599	3.8%	2,400	3.1%	△ 199	△7.7%
経常利益	2,949	4.3%	2,600	3.3%	△ 349	△11.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,592	2.3%	1,750	2.2%	157	9.9%



5 株主還元方針

株主還元方針

基本方針

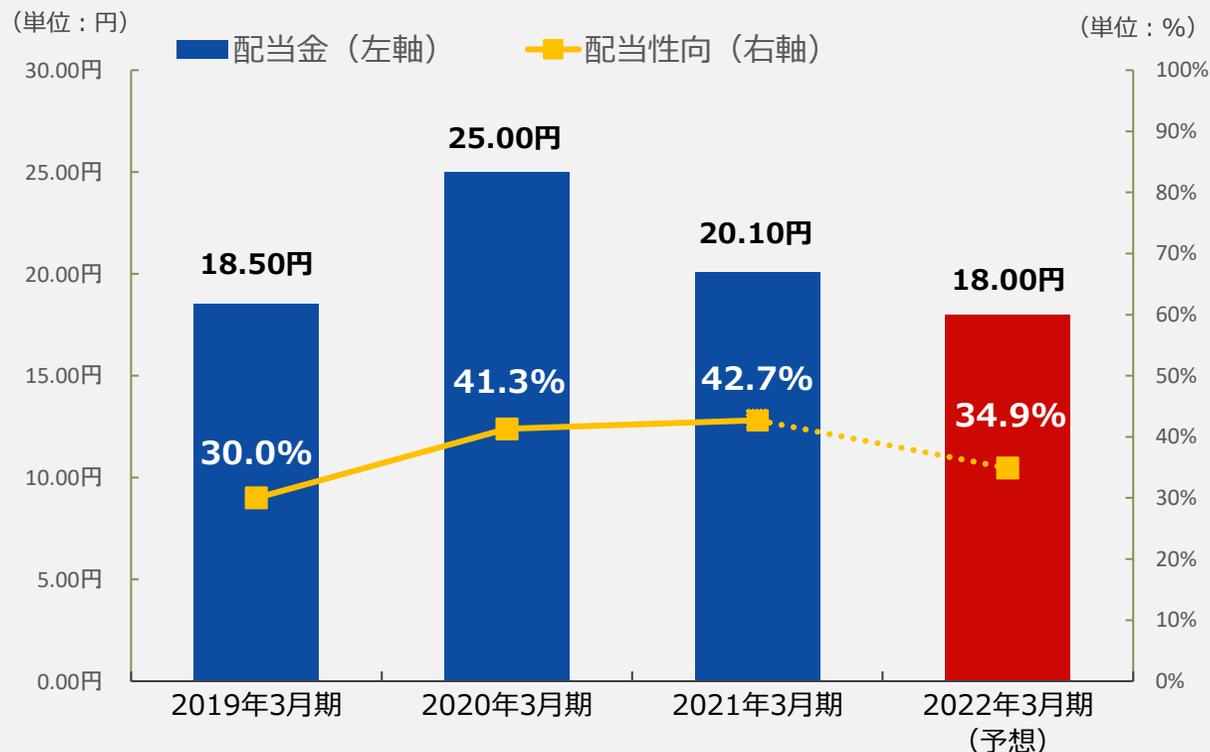
当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、連結配当性向30%を目安に株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。

将来につきましては、投資とのバランスを踏まえたうえで、連結配当性向30%を超える配当を目指してまいります。

2022年3月期の配当予想

一株当たり配当金額（18.00円）を予想しております。
これにより配当性向は34.9%になります。

配当金と配当性向



※2019年5月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2019年3月期の配当実績は、2019年5月1日付分割後の配当金額を記載しております。



6 補足資料

連結貸借対照表

(単位：百万円,%)

	21年3月末		21年12月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	14,813	68.5	15,348	65.6	534
現金及び預金	5,873	27.2	5,651	24.1	△ 222
受取手形及び売掛金	8,094	37.4	8,784	37.5	689
固定資産	6,817	31.5	8,053	34.4	1,235
有形固定資産	4,654	21.5	4,643	19.8	△ 11
無形固定資産	305	1.4	1,724	7.4	1,419
投資その他の資産	1,857	8.6	1,685	7.2	△ 171
資産合計	21,631	100	23,401	100	1,769
流動負債	8,178	37.8	9,446	40.4	1,268
未払費用	4,541	21.0	5,566	23.8	1,024
未払法人税等	494	2.3	33	0.1	△ 461
賞与引当金	950	4.4	552	2.4	△ 398
固定負債	689	3.2	1,064	4.5	374
退職給付に係る負債	345	1.6	476	2.0	131
負債合計	8,868	41.0	10,510	44.9	1,642
株主資本	12,744	58.9	12,879	55.0	135
純資産合計	12,763	59.0	12,890	55.1	127
負債純資産合計	21,631	100	23,401	100	1,769

Point

①稼働人数の増加

製造系人材サービスの稼働人数増加により、流動資産の「受取手形及び売掛金」及び「未払費用」が増加しました。

②企業結合等

株式取得による新規子会社化により、流動資産の「現金及び預金」が減少し、「無形固定資産」が増加しました。

③税金

中間納税により、流動負債の「未払法人税等」が減少しました。

④全体

上記の結果、前期末比で資産合計が8.2%増加、負債合計が18.5%増加、純資産合計が0.1%増加となり、自己資本比率は3.9%減の55.1%となりました。



人を育て 人を活かす

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

〈IRに関するお問い合わせ先〉

日総工産株式会社 IR室

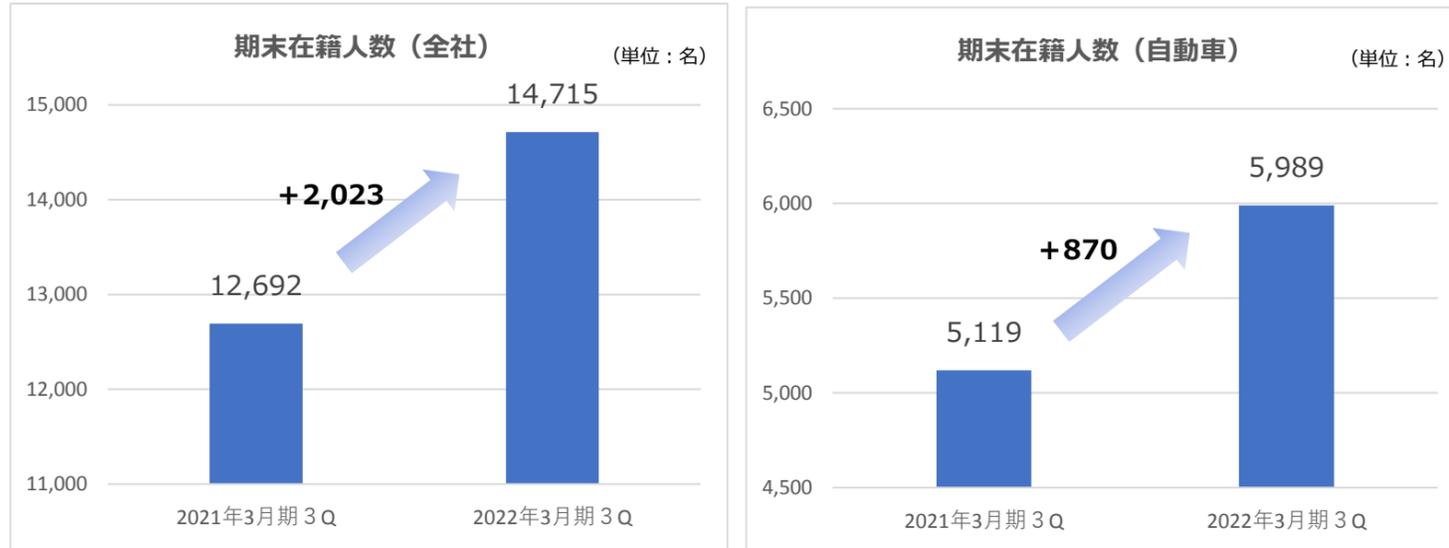
電話 045-777-7630

E-mail ir@nisso.co.jp

URL <https://www.nisso.co.jp/>

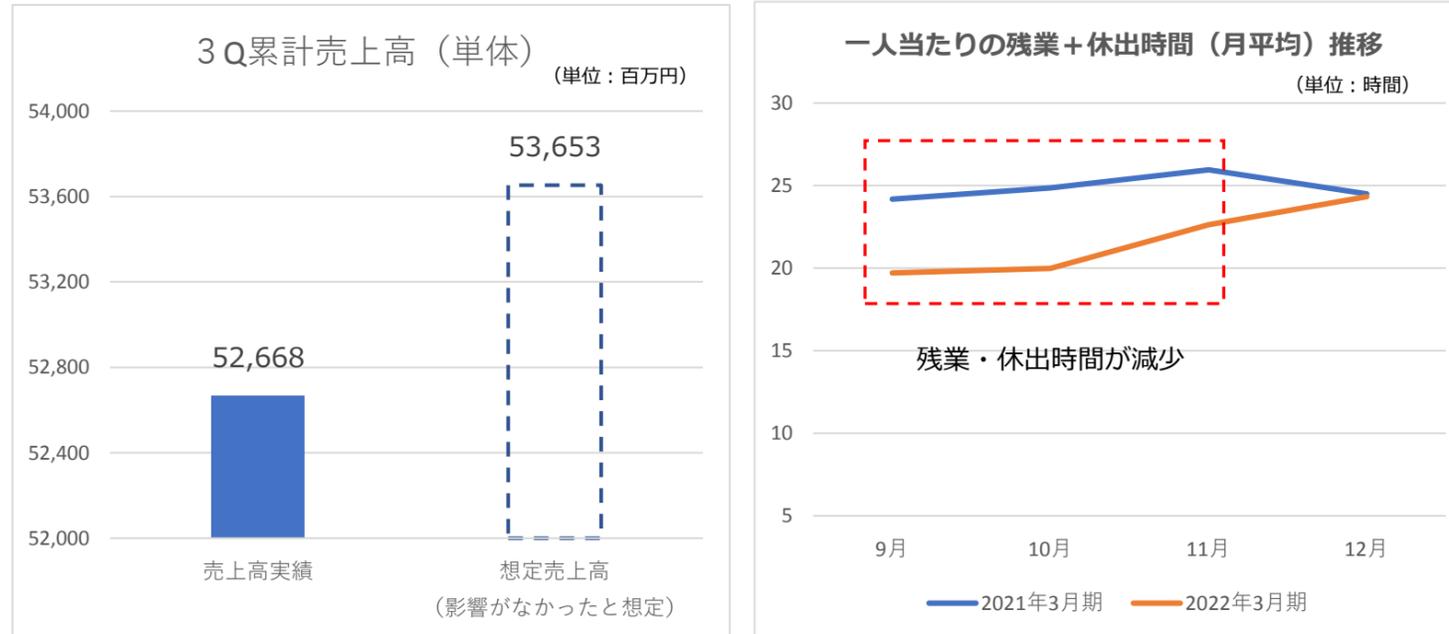
2022年3月期第3四半期（単体）増収減益の要因について（補足）

【在籍数の増加】



前年同期比で、全社の在籍数は2,023名増加、在籍数の増加及び単価上昇により売上高が増加。内、自動車関連の増加数は870名と全体の増加数の43%を占める。

【自動車関連：半導体・部品供給不足による稼働の減少】



9月以降、自動車関連の半導体・部品供給不足により、前年同期比で一人当たりの稼働日数・残業・休出時間（月平均）が減少。特に影響が大きかった月の一人当たりの売上高が、前年同期比並であったと仮定すると、売上高では約10億円、利益額では4億～4.5億ほど増加したと推定。

【販管費の増加】

（単位：百万円）

	2021年3月期 3Q	2022年3月期 3Q	増減額
採用関連費	405	1,277	871
寮関係費	708	801	93

採用関連費は、前期、コロナの影響により通常期より少ない費用となっていたことに加え、今期は採用への投資を拡大。また在籍数の増加より寮関係費が増加。

【まとめ】

- 在籍数は、当初計画を上回り増加
- 自動車関連で、半導体、部品供給不足の影響により稼働が減少、粗利率が低下
- 採用への投資拡大もあり、販管費が増加
- 増員により、寮関係費が増加
- 人材ニーズは高い状態を維持
- 自動車関連の挽回生産のための増員は継続
- 半導体需要は旺盛、増員は継続

【来期予想】

- 在籍数は、中期経営計画で想定した人数より高い状態でスタート
- 上期、自動車関連では通常の稼働に加え、挽回生産が加わることで高い稼働を見込む
- 一人当たりの売上高が回復に転ずることから、売上高、粗利は回復
- 自動車関連での稼働は、上期より下期が高いことから、通期を通して高い稼働となると想定



来期、今期の投資分の回収が可能